



## 高知医療センターなるほどライブラリ

橋田 圭介

### I. はじめに

病院は医療状況の急激な変化や病院利用者の療養環境の充実、医療の質や満足度を高めるサービス提供などにより大きく変化しています。それに伴い病院図書館も変化し、情報・通信技術の進歩もあって以前とは違った設置場所や機能をもつようになっています。

当室も統合移転により新しい図書室ができましたので紹介いたします。

### II. 高知医療センター

当院は高知県立中央病院と高知市立市民病院が移転統合して新しくできた病院で、開設主体は高知県・高知市病院企業団という自治体組織になっています。

高知医療センターの基本理念は次の3つです。

1. 患者さんが主人公の病院にします
2. 高度な医療を普段着感覚で提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします

基本理念を達成するために、基本目標も3つ定めています。

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 経営の健全化

これらに関連して図書室も運営されています。

当院の特徴は、県と市の病院が合併したということと、PFI (Private Finance Initiative) 事業の導入ということがあげられます。PFI 事業というのは、当院の場合は簡単に言えば民間企

業の持つノウハウを活かして、施設整備や医療関連サービスなどの特定事業を行い、医療業務と財務管理を行う病院企業団と協働で病院の運営にあたるものです。病床数は648床、診療科は47科で電子カルテシステムを導入しています。12階建て、基礎免震構造、面積は67,000㎡、開院は2005年3月1日です。

病院は設計当初から「患者さんに優しい病院にします」をコンセプトに、誰もが使いやすい建物としてユニバーサルデザインが取り入れられています。

ユニバーサルデザインは、ロナルド・メイス氏により提唱され、「障害の有無にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できる製品・環境の創造を目的としている」<sup>1)</sup>もので、ノースカロライナ大学ユニバーサルデザインセンター所長であったメイス氏が中心となり、ユニバーサルデザインの7原則が次のとおりまとめられています。

1. 公平な実用性
2. 柔軟性
3. 簡単でカンだけで使える
4. 感覚でわかる情報
5. エラー対応
6. 労力が少なくすむ
7. 利用しやすい大きさや空間

このようなユニバーサルデザイン理論を基本に病院が建築され、もちろん図書室も同様に配慮されたレイアウトになっています。

### III. 医療センター図書室 (なるほどライブラリ)

図書室は、「なるほどライブラリ」の名称が

はしだ けいすけ：高知医療センター 図書室

khs0169@khsc.or.jp

あり、病院の2階外来エリア（図1）にあります。エレベーターとエスカレーターに挟まれ、医局も近くににあります。開室時間は、月曜から金曜の8時30分から17時15分までで、職員はICチップ入り職員証がキーとなり24時間利用できます。医療の質の向上と患者さんサービスの向上のために活動しており、概要はつぎのとおりです（図2、3）。

- 面積：230m<sup>2</sup>
- 閲覧席：32席
- インターネット用パソコン：5台
- カラー複写機（コイン式）：1台
- 図書管理用サーバー：1台
- 業務用パソコン：2台
- 蔵書：約11,000冊
- 職員：2名（内1名司書）

この他に医学書や医学雑誌製本を約35,000冊置く別室の書庫もあります。

配架図書は医学専門書だけでなく、一般書や絵本もあり、職員はもとより患者さんや一般の方、大人も子供も利用できます。3方ガラス張りで見やすく、仕切りのない室内を見わたせます（図4）。出入口は南北に2箇所あって自動式引き戸で2.6m開き、車イスや子供でもドアの開閉の手間が省け十分な広さで楽に入退室でき、非常時には手動で外開き戸になり段差はありません。手洗い用シンクは両出入口の脇にあり、清潔な利用をしていただけるようになっています。防災設備も整い、室内に火災報知機、非常用シャッター、排煙装置、スプリンクラー、消火器を備えています。

閲覧スペースは室内の1/3ほどを占め、ゆっ

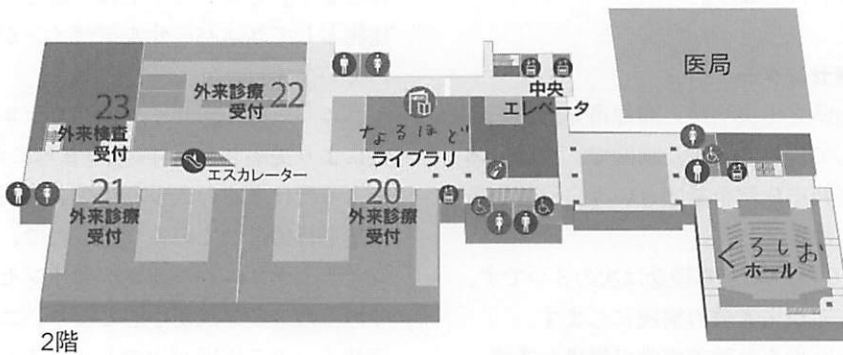


図1. なるほどライブラリの位置

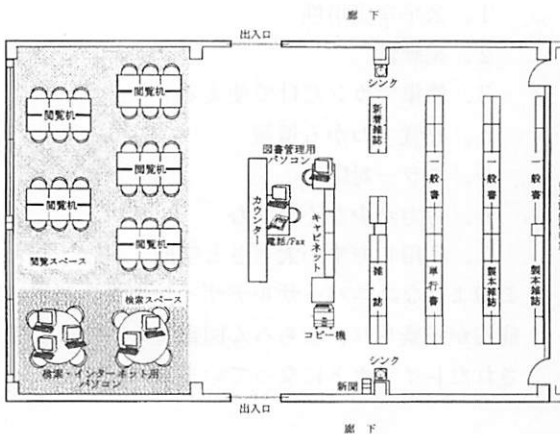


図2. なるほどライブラリ

ほすびたるらいぶらりあん2005 ; 30 (3・4) から転載



図3. 室内



図4. 南側通路からの室内

たりとしており、電源コンセントがついた6人用閲覧机5台・パソコン用机2台を配置して、床はカーペット仕上げで足音がしないようになっています。この閲覧スペースでは書店の協力により年に数回書籍の展示即売会を開催しています。

建物自体が免震構造ですが、書架は床に固定し、さらに利用者の安全のため万一のことを考え、転倒防止器具を2連ごとに取り付けています(図5)。書庫スペースの通路は、車いすがすれ違いできるように2m以上の書架間隔をとり、快適に利用できる十分な広さがあります。照明は間接照明でやさしい雰囲気を創り出し、資料への紫外線の影響も軽減しています。書架が少ないとの意見もありますが、医学書に関し



図5. 書庫スペース

ては電子図書館を目指しており、電子ジャーナル1,500誌を購読し、製本雑誌スペースは少なくともよい状況となっています。雑誌架と展示用書架は木製で、スチール書架の天板と側板にも木製品を取り付けて柔らかい雰囲気を持たせています。展示用書架にはわかりやすい医学書を展示し、病気について学ぶとっかかりとなるようにしています。

室内の床はOAフロアになっており、電源線や通信線にひっかかり、利用者が転倒したり機器の電源が落ちないようにしています。閲覧スペースのカーペット部分と書庫・カウンタースペースのフローリング部分の境もフラットです。

担当者用スペースは床に固定したカウンターとキャビネットの間で、室内の真中にあり南北の入り口や、仕切りのない室内を見渡すことができ、利用者の動向を把握しやすい位置にあります。図書システムサーバーや無停電電源装置はカウンターの下に置き、担当者以外は触ることができないようになっています。コイン式コピー機もキャビネットの横に置き、操作方法や質問などにその場で答えることができるように管理しています。

## V. おわりに

病院図書館は病院自体の役割、運営方針や利用対象者により、院内での位置や規模が異なります。サービス内容も違うために、これがあるべき姿というものはありません。それぞれが正解であると思いますが、利用者にとって使いやすい図書館とすること、将来の活動の変化を予想しレイアウトすることが大切と考え、当室はゆとりのある配置となっています。

## 参考文献

- 1) Mace, Ronald L. ユニバーサルデザイン理論とその具体化. Universal Design 1998 ; 1(1):6-11.